

J Rの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

職場に闘う労働組合を

J R「働き方ブラック企業」ワースト1に

働き方“ブラック”企業トップ3

2023年上半期に
ネガティブ投稿が多かった企業一覧

順位	企業名	口コミ投稿数
1	東日本旅客鉄道	49
2	日本生命保険	38
3	三井住友海上火災保険	24

■ 誌面で紹介された声の一部 ■

- 近年退職者も増え月40～50時間の残業が当たり前
- 以前より少ない人数で仕事しなければならず、体力的にも精神的にも限界
- 希望した休日はなかなか取れない
- 現場の社員は高熱だろうがはってでも出社している
- コロナを機に環境が一変し、ホワイトからブラック寄りの企業になっている
- 基本給が安くボーナスでとんとん。コロナ禍でボーナスがカットされて厳しい
- 会社はさまざまな施策を打ち出しているが、賃金減少、待遇悪化、自己啓発活動の強要により、現場の疲労感がすごい

職場の団結と闘う労働組合に攻撃を打ち破る力があるからです。改めて職場に闘う労働組合が必要です。

現場からの怒りの声と行動になることを、会社は何よりも恐れています。会社はこうした声を抑えるために労働組合への攻撃を強めてきました。

一方で、深澤社長は7月31日のグループ社長

深澤社長「モードチェンジが鍵」

ビジネス週刊誌「ダイヤモンド・オンライン」の8月3日付記事で23年上半期の「働き方ブラック企業ランキング」が発表され、JR東日本はワースト1でした。
調査対象は1万2026社、「働き方に関するネガティブ情報」は4599件、投稿があった会社の平均件数は約2.6件でした。
JR東日本の投稿数は約49件です。紹介された声は、労働環境の悪化や退職者の増加、一時金減額の深刻な影響を物語っています。

攻撃を打ち破る力は現場に

会場で、「6月で組織再編の形ができた」「キーワードはモードチェンジ」「人的資源の有効な活用とリスクリングを進めていく」と語りました。
この間の「鉄道部門4千人削減」「転籍・副業促進」、業務融合化と「鉄道を持つIT企業」の攻撃をさらに進めようとしています。

運転職場ではジョブローテーションや運転士・車掌を「何でも屋」のように扱う攻撃の中、退職や休職に追い込まれる労働者が急増しています。

そこにある不安や苦しさ、現場からの怒り